

開会あいさつ

埼玉県合同輸血療法委員会 代表世話人 池淵 研二

皆さんこんにちは。埼玉輸血フォーラムも今回で8回を迎えることができました。

埼玉県合同輸血療法委員会のメンバーが埼玉県の輸血の安全性を高めるために色々と活動しておりますが、その報告会と特別講演、教育講演という形の組み立てで今日も行いたいと思います。昨年はオリンピックの時にジカ熱のこととか、あるいは最近都内では、ジビエ料理によりE型肝炎とか輸血にからむ感染症について毎年のように色々と話題が起こっていますが、今のところ安全にそのあたりはクリアできているように思われます。最初のセッションでは埼玉県合同輸血療法委員会の検査技師部会、検査技師さんたちが中心になって動いております業務検討小委員会のほうから不規則抗体カードの状況についてご報告をいただくことになっています。続きまして、自己血輸血小委員会のほうの企画で訪問勉強会というものを行っていますが、その今年までの総括をご報告したいと思っています。それから、最近看護師の方々が輸血の中で非常に重要な役割を演じておられますので、看護師部会も立ち上げまして、その活動の一環をご報告させていただきたいと思って

います。それから今日も新聞に出ていましたが、慶応大学では脊髄損傷に対してiPS細胞を使った再生医療を倫理審査委員会に申請したという報道がありました。よく輸血学会等々に顔をだしますとiPS細胞から血小板を作るとか赤血球を作るとか、あるいはそれが将来血液製剤の替わりになっていくのではないかとか、そういう話をよく聞きます。それがどの程度の実現性を持っているかどうか、どうしても興味があって聞きたいということで大阪から谷先生にご登壇いただいてそのあたりの事情をご紹介していただきたいと思いました。それからもう一度改めて日本の輸血事業のスタートから現在に至るまで、どのような努力が行われて現在の安全性が担保されているかどうか、そしてこの日本の輸血事業は世界の中ではどのような位置づけで捉えられているかどうか、そのあたりをもう一度勉強したいなということで、北海道から高本先生に来て頂いて特別講演をお願いしたいと思っています。今日はどうぞ楽しんで時間を過ごしてください。どうぞよろしくお願いたします。